

セシムベカラズ。此咳嗽ノ原因ハ余ノ信ズル所ニ於テハ覺醒時ニハ自然ニ嚔出又ハ嚔下サルベキ粘液ガ睡眠中食道ニ蓄積シ、遂ニ分解シテ刺激性トナルニ依ルモノナラン。此咳嗽ハ就眠時又ハ覺醒時ニ熱キ飲料ヲトル事ニヨリ輕減サルベシ。斯ル症狀ノ頑固ノ持續ハ食道胃洗滌ノ適應ヲ示スモノニシテ、此際「カテーテル」ハ約二〇—二五仙迷挿入シ、微温ニセル純水又ハ藥液ヲ注入ス（液量ハ經驗又ハ患者ニヨリ示サル）斯クテ「カテーテル」ハ一層深ク挿入シテ胃ニ至リ、而シテ液ハ流出サル。

尙ホ、鼻腔、咽喉、其他臟器ノ合併症アラバ之ニ對シ適當ノ所置ヲ施スベキ事勿論ナリ。（西川勳 譯）

雜報

伊達久庸君逝去

本會名譽會長伊達久庸君は宿痾喘息の爲め三月中旬より蔕裡に在りて靜養に力められ漸次快方に赴かれつゝありしか同月末日頃より急に病革まり遂に本月二日永眠せられたり越えて四日自宅に於て其葬儀を執行せられたるに朝野の名士會葬し非常に盛大なりし今當日朗讀せられたる弔詞を得たれば左に掲ぐ

弔詞

本社岡山支部商議員特別社員正五位勳五等伊達久庸君遠逝セラレ君ハ本社岡山支部商議員トシテ多年社業ニ盡瘁セラレ其功實ニ渺カラス

今訃音ニ接シ洵ニ痛惜ノ至リニ堪ヘス仍テ社員百八十八萬餘人ニ代リ恭シク弔詞ヲ呈ス

大正九年四月四日

日本赤十字社長 男爵 石黒 忠憲

弔詞

正五位勳五等醫學士伊達久庸君ハ宿痼遠ニ革マリ溘焉トシテ遠逝セフル嗚呼哀哉

君天資英敏夙ニ身ヲ杏林ニ投シ明治十九年東京帝國大學醫學部ヲ卒業セララル、ヤ直ニ廣島縣醫學校一等教諭兼同縣病院一等司療醫ヲ命セラレ二十一年三月我校教授ニ就任セラレ二十四年九月初メテ我岡山縣病院ニ小兒科ヲ設置スルニ至レルハ實ニ君ノ努力ニ待ツ所多カリキ而シテ實ニ君ハ其最初ノ醫長タリ二十八年八月岡山縣病院副院長ヲ囑託セラレ三十三年十二月勳六等ニ叙シ瑞寶章ヲ授ケラレ三十七年十二月勳五等ニ陞叙セララル同三十九年三月其職ヲ辭セララル、ニ及ヒ官其功勞ヲ錄シ特ニ正五位ニ陞叙セララル
明治三十九年三月君業ヲ當市ニ開カル、ヤ患者四集君ノ力ニ賴リ以テ其生子回ス者幾千人ナルヲ知ラス天若シ之ニ假スニ年ヲ以テセンカ其慈術ニ浴スル所測リ知ルヘカラス然ルニ今ヤ幽明境ヲ異ニス追懷ノ感極マリテ殆ント言フ所ヲ知ラス
玆ニ謹ミテ哀悼ノ辭ヲ述ヘ英靈ヲ弔ス

大正九年四月四日

岡山醫學專門學校長

岡山縣病院長

從四位勳三等醫學博士 筒井 八百珠

弔辭

岡山醫學會ハ名譽會長正五位勳五等醫學士伊達久庸君ノ逝去ヲ悼

雜報

ミ謹テ哀悼ノ意ヲ表ス

大正九年四月四日

岡山醫學會長從四位勳三等醫學博士筒井八百珠

弔辭

本會々員伊達久庸君ノ逝去ヲ聞キテ悼惜ノ情ニ禁ヘス恭シク弔辭ヲ君ノ靈前ニ捧テ本會ノ微衷ヲ表ス

大正九年四月四日

大日本醫師協會々頭醫學博士 片山 國嘉

弔辭

岡山醫學專門學校學友會ハ正五位勳五等醫學士伊達久庸君ノ逝去ヲ悼ミ謹テ哀悼ノ意ヲ表ス

大正九年四月四日

岡山醫學專門學校學友會長

從四位勳三等醫學博士 筒井 八百珠

弔詞

岡山市醫師會々員伊達久庸君ノ逝去ヲ痛ミ爰ニ弔詞ヲ呈ス

大正九年四月四日

岡山市醫師會長 石本 於義太

弔詞

藝備醫學會岡山部會々員一同ハ名譽會長正五位勳五等伊達久庸先生ノ御逝去ヲ悼ミ謹テ弔意ヲ表シ奉ル

大正九年四月四日

藝備醫學會岡山部會々長 赤澤 乾 一

弔辭

畏友正五位勳五等醫學士伊達久庸君逝矣嗚呼哀哉

君ハ明治十九年七月帝國大學醫學部ヲ卒業シ聘セラレテ廣島縣醫學校一等教諭兼廣島縣病院一等司療醫トナリ二十年五月福山病院長ニ轉シ二十一年三月第三高等中學校醫學部ヲ岡山ニ設置セラルルヤ選ハレテ其教諭ニ任セラルル二十四年九月岡山縣病院小兒科醫長ヲ囑託セラレ越テ三十九年三月本官竝ニ病院ノ囑託ヲ辭シ伊達小兒科病院ヲ開設シ以テ今日ニ至レリ

其間岡山醫學專門學校學友會名譽會友トシテ又岡山醫學會名譽會長トシテ其會ノ爲ニ盡力セラル、所亦實ニ尠少ナラサリシナリ君資性廉潔人ニ接スル温情アリ而シテ小兒科學ニ於テ最モ造詣深シ故ヲ以テ君ノ官職ヲ辭シ病院ヲ開クヤ來テ治テ乞フモノ門前常ニ市ヲ爲シ岡山地方小兒科醫ノ權威トシテ令名高カリシカ今ヤ幽明境ヲ異ニシ復溫容ニ接スルコト能ハス悲痛曷ソ堪ヘン嗚呼哀哉
大正九年四月四日

友人 從四位勳四等醫學博士 坂田 快太郎

弔詞

維時大正九年四月二日恩師正五位勳五等醫學士伊達久庸先生澄然トシテ逝去セラル噫哀夫

願レハ先生ハ育英ニ治療ニ身ヲ醫界ニ委ネラル、コト三十有五年學邃ク徳高ク洵ニ斯道ノ達人タリ晩年健康勝レサルモノアリ生等ノ其同春ヲ希フモノ切ナリシカ藥石途ニ效ナク幽明相異リ再ヒ其溫容ヲ拜スルコト能ハス痛哭奚ソ堪ヘンヤ噫哀夫雖然先生ノ功業ハ空シク散セス令名ハ綿々トシテ長ヘニ朽チサルヘシ先生幸ニ安セラレヨ茲ニ生等英靈ニ對シ寔ニ愁傷ニ堪ヘス謹テ至誠ヲ捧テ弔詞ヲ白ス尙クハ饗ケヨ

大正九年四月四日

門弟總代 佐久間 章一郎

●敍任及辭令

敍正六位

從六位勳四等 村上 敬二 (三月二十日)

豫備役被仰付

陸軍軍醫監 高橋 勝彦 (三月二十二日)

任陸軍三等軍醫

陸軍一等看護長 高橋 勝護

任陸軍三等軍醫

陸軍一等看護長 神谷 英典

任陸軍三等軍醫

陸軍一等看護長 赤木 義孝

任陸軍三等軍醫

陸軍一等看護長 田中 正慶

任陸軍一等軍醫

陸軍一等看護長 三原 常雄

任陸軍三等軍醫 陸軍一等看護長 吉川勝司

任陸軍三等軍醫 陸軍一等看護長 眞砂幸一郎

任陸軍三等軍醫 陸軍一等看護長 長直登

任陸軍三等軍醫 陸軍一等看護長 松岡賢一

任陸軍三等軍醫 陸軍一等看護長 中島龍一

任陸軍三等軍醫 陸軍一等看護長 梶谷尙

任陸軍三等軍醫 陸軍一等看護長 緒方顯孝

任陸軍三等軍醫 陸軍一等看護長 中井茂樹

任陸軍三等軍醫 陸軍一等看護長 三好義雪

任陸軍三等軍醫 陸軍一等看護長 三藤香吉

任陸軍三等軍醫 陸軍一等看護長 岡本東洋男

任陸軍三等軍醫 陸軍一等看護長 高山榮次郎

正五位勳五等醫學博士 島蘭順次郎

敘勳四等授瑞寶章

海軍軍醫中尉 伊藤慎一

免松江乘組補第二十五驅逐隊附 (三月二十九日)

臺灣總督府醫院醫官從六位 森滋太郎

任臺灣總督府醫院醫長

敘高等官四等 (三月三十一日)

任陸軍二等軍醫 陸軍三等軍醫正八位 倉內嘉也

任陸軍二等軍醫 陸軍三等軍醫正八位 伊賀久家

任陸軍二等軍醫 陸軍三等軍醫正八位 大屋音市

任陸軍二等軍醫 陸軍三等軍醫正八位 大谷顯三

任陸軍二等軍醫 陸軍三等軍醫正八位 岡田俊之

任陸軍二等軍醫 陸軍三等軍醫正八位 太田近治

任陸軍二等軍醫 陸軍三等軍醫正八位 高原武一

任陸軍二等軍醫 陸軍三等軍醫正八位 北本宗治

(各通)

朝鮮軍司令部附被免 陸軍二等軍醫 丸川千基

朝鮮軍司令部附被免 陸軍二等軍醫 大屋音市

朝鮮軍司令部附被免 陸軍二等軍醫 丸川千基

補野砲兵第二十六聯隊附 陸軍二等軍醫 大屋音市

補野砲兵第二十六聯隊附 陸軍二等軍醫 丸川千基

朝鮮司令部附被免野砲兵第十一聯隊附被仰付 陸軍二等軍醫 金光三郎

野砲兵第十二聯隊附陸軍二等軍醫 陸軍二等軍醫 金光三郎

免本職臨時朝鮮派遣步兵第五大隊附被仰付 陸軍二等軍醫 甲斐義長

任陸軍一等軍醫 陸軍二等軍醫從七位 山田昇

對馬重砲兵大隊附陸軍二等軍醫 陸軍二等軍醫 井原愛雄

免本職補步兵第五十七聯隊附

獨立守備步兵第四大隊附陸軍一等軍醫 山田 昇
 免本職補步兵第十二聯隊附

陸軍一等軍醫 神山房助
 步兵第十五聯隊附被免

陸軍一等軍醫 神山房助
 補羅南衛戍病院附

野砲兵第二十三聯隊附陸軍一等軍醫 尾崎文七郎
 免本職補岡山衛戍病院附

步兵第五十四聯隊附陸軍二等軍醫 岸本宗治郎
 免本職補岡山衛戍病院附

陸軍二等軍醫 金光三郎
 補野砲兵第十一聯隊附

從四位勳五等醫學博士理學博士 桂田富士郎
 伊國「セノア」ニ於テ海員ニ關スル勞動總會開催ニ付政府代表委員顧問ヲ命
 ス (四月十七日)

岡山醫學專門學校教授醫學博士 八木田 九一郎
 五級俸下賜 (四月十六日)

岡山縣警察醫 陶山 鑽 治
 年俸千參百圓下賜
 岡山縣警察醫 鈴木 昌 平
 年俸千貳百圓下賜 (三月三十一日)

敘從四位 正五位勳三等功四級 高橋勝彦

敘正六位 從六位勳六等 大橋直俊

陸軍軍醫監正五位勳三等功四級 高橋勝彦

海軍軍醫少佐從六位勳六等 大橋直俊

特旨ヲ以テ位一級被進

(四月二十日)

六級俸下賜 臺灣總督府醫院醫官 杉山 榮

六級俸下賜 臺灣總督府醫院醫長 森 滋太郎
 (三月三十一日)

臺灣總督府醫學專門學校教授 吉田 坦 藏

臺灣總督府醫學專門學校長堀内次雄不在中代理ヲ命ス

(四月五日)

第十一師團軍醫部部員陸軍二等軍醫 白 玖 壽 雄

免本職補騎兵第十一聯隊附

輜重兵第十大隊附陸軍二等軍醫 安田仙次郎

依願休職被仰付

(四月二十二日)

敘 賜
 勳等 賜金 陸軍官等勳功 氏 名
 旭六等 五六〇 二等軍醫正八位 秋 岡 虎 雄

● 人事彙報

- 桂田富士郎君 別項記載の如く今回伊國ゼノアに於て開會の海員に關する勞働總會政府代表委員顧問を命ぜられたる同君は本月十五日附を以て文部省より海外に於ける戰後醫學教育の狀況視察を囑託せられたり尙ほ委員一行は本月二十六日神戸解纜の若狹丸にて出發せられたり
- 平川武三郎君 は豫て九州醫科大學耳鼻科教室に於て研究中なりしか今回奉天南滿醫學堂教授兼奉天滿鐵醫院耳鼻科醫長に任せられたり
- 保田瀨君 は今回海軍探炭所を辭し日本赤十字社和歌山支部病院耳鼻咽喉科に勤務せられたり
- 多田武君 は今般門司市秋武醫院を辭し香川縣衛生課に勤務せられたり
- 高祖敏雅君 は豫て京都大學醫學部病理學教室に於て研究中なりしか今回同大學醫學部産婦人科教室に轉勤せられたり
- 池浦義夫君 は今般下關市東南部町小倉記念病院下關分院に轉勤せられたり
- 三上紀之君 は豫て下關市小林病院に勤務し居られしか今回大阪市回生病院耳鼻咽喉科に轉勤せられたり
- 藤原角一君 は豫て岡山縣病院内科に勤務し居られしか先般福岡縣糟屋郡久原村久原炭礦會社醫局に轉勤せられたり
- 瀧稻生君 は豫て兵庫縣高砂町鐘淵紡績會社醫局に勤務し居られしか今般香川縣坂出町倉敷紡績會社醫局に轉勤せられたり
- 尾上順太郎君 は今般郷里熊本縣葦北郡津奈木村に歸郷開業せられたり
- 大橋直俊君 は今回豫備役となり郷里兵庫縣養父郡養父市場村に於て開業せられたり
- 牛尾八治君 は今回豫備役となり兵庫縣飾磨郡谷外村に於て開業せられたり
- 八木重一君 は今般日本赤十字社愛媛支部病院を辭し大阪府東成郡中本町に於て開業せられたり
- 福原譚君 は豫て岡山縣病院内科に勤務し居られしが今般廣島縣豊田郡久芳村に於て開業せられたり
- 小野是一君 は今回本縣小田郡小田村に於て開業せら

れたり

○梅崎明君 は豫て松山市日本赤十字社愛媛支部病院に勤務し居られしか今回同院を辭し兵庫縣美嚮郡三木町に於て開業せられたり

○林昇君 豫て神戸市吉田病院に勤務中の同君は今般同院を辭し神戸市須磨町に於て開業せられたり

吉本源造君 明治四十一年岡山醫學專門學校を卒業し郷里に於て開業中なりし同君は近來健康を害し静養に力められしも其效なく去月十九日遠逝せられたりと洵に哀悼の情に堪へざるなり

●新入學生 入學選抜試験の結果本年四月岡山醫學專門學校に入學を許可せられたる諸君は左の如し

- 田坂 三 友廣 島 渡邊 傳 二岡山
- 南 進 大阪 和田 茂島根
- 秋山 卓 三廣島 吉本 精 一岡山
- 中村 博 郷和歌山 西崎 武亥 一岡山
- 山岸 督 郎 岐阜 高田 隆 次 大分

- 谷上 太郎 鳥取 中井 良平 福岡
- 秋月 正夫 和歌山 佐々木 道雄 廣島
- 中村 武山口 脇田 政之助 鹿兒島
- 井上 龜次郎 和歌山 山崎 光太郎 廣島
- 浦上 仲司 岡山 浦野 銳 一 靜岡
- 山鹿 敏行 福岡 藤山 嵩 岡山
- 尾錢 二郎 岡山 鈴木 重隆 岡山
- 河田 榮一 岡山 田中 公明 愛媛
- 尾坂 政男 岡山 菅田 瀨 岡山
- 野上 德次郎 岡山 眞玉 三治郎 大分
- 河野 豐島根 水口 半吉 和歌山
- 岡本 正人 大分 綱島 義人 岡山
- 高島 西輝 岡山 井村 隆一 愛媛
- 野崎 孝太郎 新潟 川西 英雄 岡山
- 松岡 憑高知 山本 本一 兵庫
- 岡崎 好太郎 廣島 岸 虎一 德島
- 跡部 鉄朗 山梨 弓山 喜代馬 愛媛
- 豐島 一男 鹿兒島 三井 逸平 香川
- 八木 齊 大阪 鮫島 宗雄 鹿兒島

遠藤義信 德島	本多稔 長崎	瀨尾仁廣 島	磯橋庄哲 奈良	釘宮文生 大分	佐藤春海 大分	八田吳一 岡山	長龜久麿 廣島	笹屋昌平 靜岡	萩原義春 岡山	加原一夫 岡山	植村吉雄 岡山	田中德男 廣島	正木忠生 山口	上村博美 德島	松枝正一 岡山	巖本岳島 根	芳井康次 大阪	松家稔德 島	小野正雄 岡山	森下憲一 兵庫	内藤敏夫 京都	勝野勝德 島	藤川良雄 德島	矢木義雄 鳥取	田中龜岡 山	安氏茂山 口	辻鹿子治 岡山	池井柳藏 宮崎	上田敏夫 兵庫	大浦榮鹿 兒島	榎綱雄山 口	吉中佳辰夫 廣島	大段圓次 廣島	重信琢雄 廣島	伊藤一雄 兵庫	竹谷政治 大阪	川上良隣 岡山
------------	-----------	-----------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	-----------	------------	-----------	------------	------------	------------	-----------	------------	------------	-----------	-----------	------------	------------	------------	------------	-----------	-------------	------------	------------	------------	------------	------------

桑島勝美 香川	原田輝雄 岡山	宮本種美 香川	岩崎暉次 岡山	柴田潤一 岡山	淺田豐大 阪	南智秋三 重	赤松圓岡 山	中富和夫 德島	福永正二 兵庫	岡本俊一 和歌山	榎本正治 山口	迫隆藏 廣島	荒田一郎 山口	磯部義彦 石川	津下百太郎 岡山	糸林昌訓 德島	瀬戸忠次 郎香川	中邑明治 廣島	田中敏治 岡山	吉岡嘉尙 廣島	陳賀得壺 灣	江有慶壺 灣	蔡錫鎡壺 灣	黃有福壺 灣	李宅洙朝 鮮	姜龍雲朝 鮮	鍾體德支 那	黃耀祖支 那	陳人際支 那	李詩時支 那
------------	------------	------------	------------	------------	-----------	-----------	-----------	------------	------------	-------------	------------	-----------	------------	------------	-------------	------------	-------------	------------	------------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------

因に記す同校に於ては右の新入學生に對し本月十二日入學宣誓式を施行せり